

# 自動車リサイクルにおける 再生材利用拡大に向けた 産官学連携推進事業

## プラスチックのリサイクル技術・システムの高度化による再生材利用の拡大

廃棄物・資源循環分野からの温室効果ガスの排出量の多くを廃プラスチック等の焼却・原燃料利用に伴うCO<sub>2</sub>が占めており、2050年カーボンニュートラルを実現するためには、化石由来資源が使われているプラスチック製品のリサイクルが不可欠です。

欧州では2030年以降にEU域内で流通する自動車において一定比率以上の再生プラスチックを使うことを義務化する規則案が提案されており、このような国際環境変化への対応は、我が国企業の産業競争力の

観点からも重要です。

環境省では、欧州の規則案や残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約（POPs条約）等への対応として、自動車リサイクルに関わる製造業者やリサイクル業者等の連携により高品質な再生材の利用拡大に向けた技術の構築を行い、プラスチックのリサイクル技術・システムの高度化を図り、社会実装を見据えた技術的課題の解決・事業化を目指しています。



自動車リサイクルに関わる



### 製造業とリサイクル業の連携での環境対応と経済成長

ネットゼロ（炭素中立）・サーキュラーエコノミー（循環経済）・ネイチャーポジティブ（自然再興）の同時達成を推進

事業イメージ



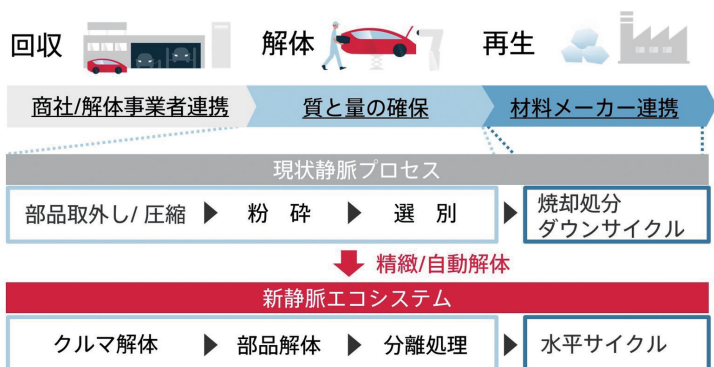
テクノロジー(ロボティクス技術)を用いたELVの自動精緻解体および高純度の再生材の大量抽出による水平サイクルの可能性の検証 期間：令和5～6年度

代表 株式会社デンソー

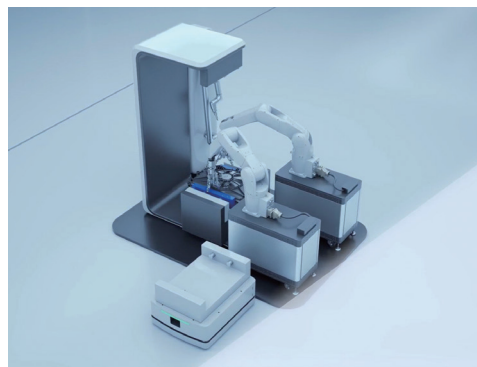
## ELV自動精緻解体を起点とした水平サイクルを実現する動静脈一体プロセスの技術実証事業

ELV規則案などへの対応をはじめ、循環経済への移行に向けては、ELV解体・破碎事業は極めて大きな市場ポテンシャルを持つが、高度機械化やデジタル化といったテクノロジー展開の困難性と、労働力不足・後継者問題・安

心安全な労働環境の未整備といった問題があるため、テクノロジー(ロボティクス技術)を用いてELVを自動精緻解体し、高純度の再生材を高生産性で大量に抽出することを通じた水平サイクルの確立を目指します。



コンセプトの位置づけ



自動精緻解体ロボットのイメージ